

会派の活動を報告します

政 友 会

昨年より私たちの会派が進めてきた「住民投票条例」の設置に向けた活動として、まちづくりの第一人者・山崎亮さんをお招きしたシンポジウムに参加しました。テーマは「市民参加のまちづくり」。公園の整備や公共施設の在り方など、まちの中で決まることは、私たちの暮ら

しに直結する大切なことばかりです。しかし実際には、「気づいたときにはもう決まっていた」という感覚を持つ方も少なくないのではないのでしょうか。その現状を変える一つの答えが、住民自らが意思を示せる「住民投票」の仕組みです。住民参加の政治が進むことで、より愛着の持てるまちへと進化していくと私たちは確信しています。これからのまちの在り方を、私た

ちと一緒に考えてみませんか。皆さんの声が、市政を動かす原動力になります。



古河市公明党

古河市公明党は令和8年6月10日、「中東情勢に伴う物価高騰から市民生活を守る緊急要望」を市長へ提出しました。中東情勢の不透明化により物価高騰が続く中、国ではエネルギー価格上昇への支援や重点支援地方交付金の拡充を盛り込んだ補正予算が成立しました。本市と

しても、市民生活や地域経済への影響を最小限に抑える対策が求められています。要望では、①水道基本料金の減免継続、②低所得世帯・子育て世帯への支援、③農業資材高騰への支援、④医療・介護・障がい施設への運営支援、⑤市発注工事の資材流通把握・価格反映・工期への柔軟な対応、⑥上記に限らず、今後の物価動向を踏まえ、市民への支援策を迅速に実施するこ

と、の6点を求めました。引き続き、市民の暮らしを守るため、実効性ある施策の実現に取り組んでまいります。



市民ベースの会

外国人居住者数が約7,000人に迫る当市の外国籍児童生徒の学習支援状況について視察しました。

初めに、三和北中学校で県の加配教員と支援員による日本語指導教室と美術学習を参観しました。授業中ではありましたが、男子生徒に英語で日本語につい

いて尋ねると「ひらがなの日本語は複数の異なった意味がある、漢字の書き順に苦労している」とその難しさについて流ちょうな日本語で答えてくれました。

続いて諸川小学校へ移動し、小学校における外国にルーツを持つ児童たちの日本語教室およびクラス授業の風景を参観させていただきました。当日、日本語教室では児童2人に対し、担

当教員2人が担当しており、多い時はこの人員で児童4人まで対応するとのことでした。出身国が多岐にわたることから、予算を付けて職員の増員も検討すべきであると感じました。

